



第1回「国道41号片掛地区法面崩落対策検討委員会」(書面表決)を開催しました。

○本日開催しました第1回「国道41号片掛地区法面崩落対策検討委員会」(書面表決)の結果(議事概要)をお知らせします。

<結果(議事概要)>

- 引き続き、計測データを観測しながら、追加調査等の結果を踏まえ、崩落要因の究明と斜面の安定対策を検討すること。
- 現在、通行止めしている区間の早期開放を図るため、当面実施する応急組立橋による国道の復旧については、追加調査の結果を踏まえて、安全性が確保されるよう設計・施工を行うこと。
- 今後、斜面の安定対策や追加調査の結果も考慮しながら、工事中の新橋の対応方針を検討すること。

※ 応急復旧の完了時期等については、工事工程等を精査し、後日、お知らせします。

お問い合わせ先

■ 調査第二課長 たかた ひでかず 高田 英和 TEL : 076-443-4717 (直通)
FAX : 076-443-4718



パレットとやま

国土交通省 北陸地方整備局 富山河川国道事務所

TEL : 076-443-4701(代)(夜間・休日)

おくだしんまち
〒930-0837 富山市奥田新町2番1号 <http://www.hrr.mlit.go.jp/toyama/>

1. 被災概要

【被災状況】



R2.1.30 被災前

□ 施工済み

→ 未施工

路肩空洞状況

路肩空洞状況

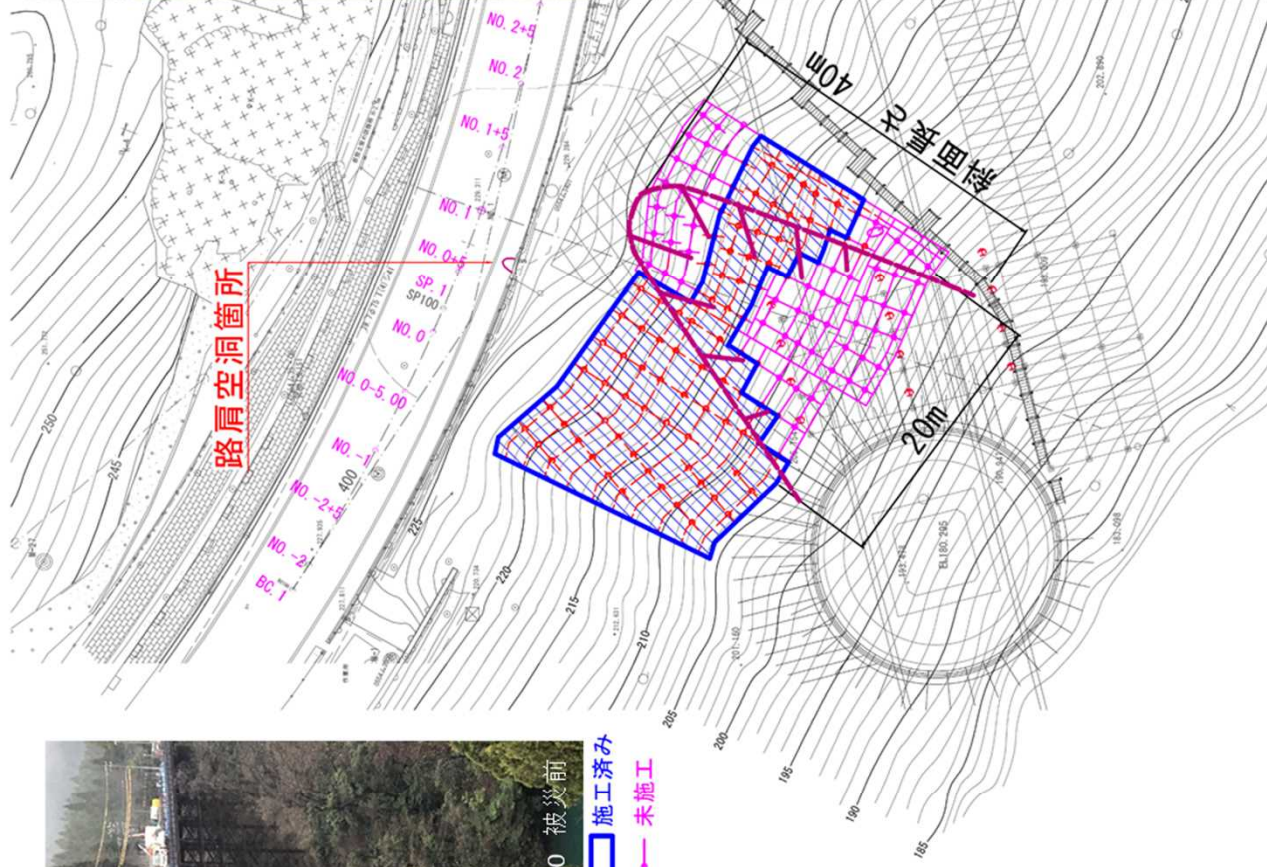


路肩空洞形状

道路横断延長 L=1.0m

道路横断延長 L=1.0m

垂直深さ L=0.6m

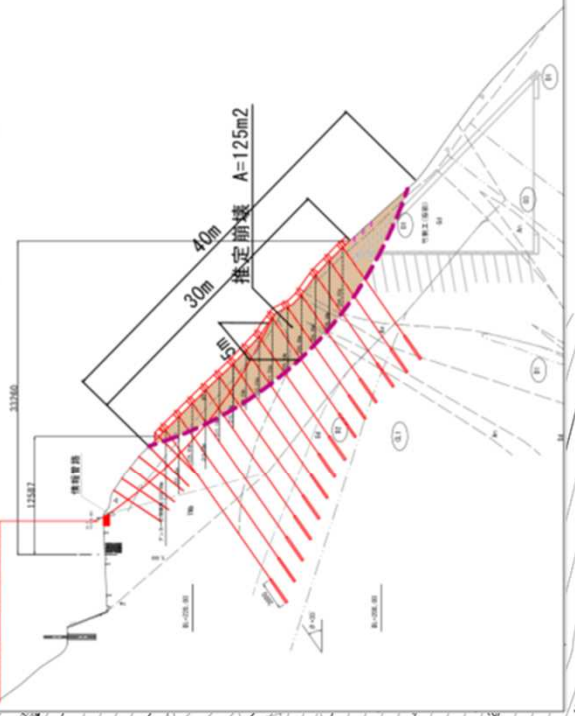


R2.4.10 被災後

NO.1

路肩空洞箇所

推定崩壊土量の計算
(崩壊幅、延長、深さは写真より想定)
 $V = (0 + 125m^2) \times 1/2 \times 20.0m$ (崩壊幅) = 1250m³



● 応急組立橋の概要

河川の増水、地震、土砂崩等の災害で、道路や橋梁が使用できなくなった場合に、早期に交通路を確保するための仮橋として使用することができます。

すべての部材がトラックとトレーラに積載できるため、トレーラが通行可能であれば、どこにでも運搬できます。

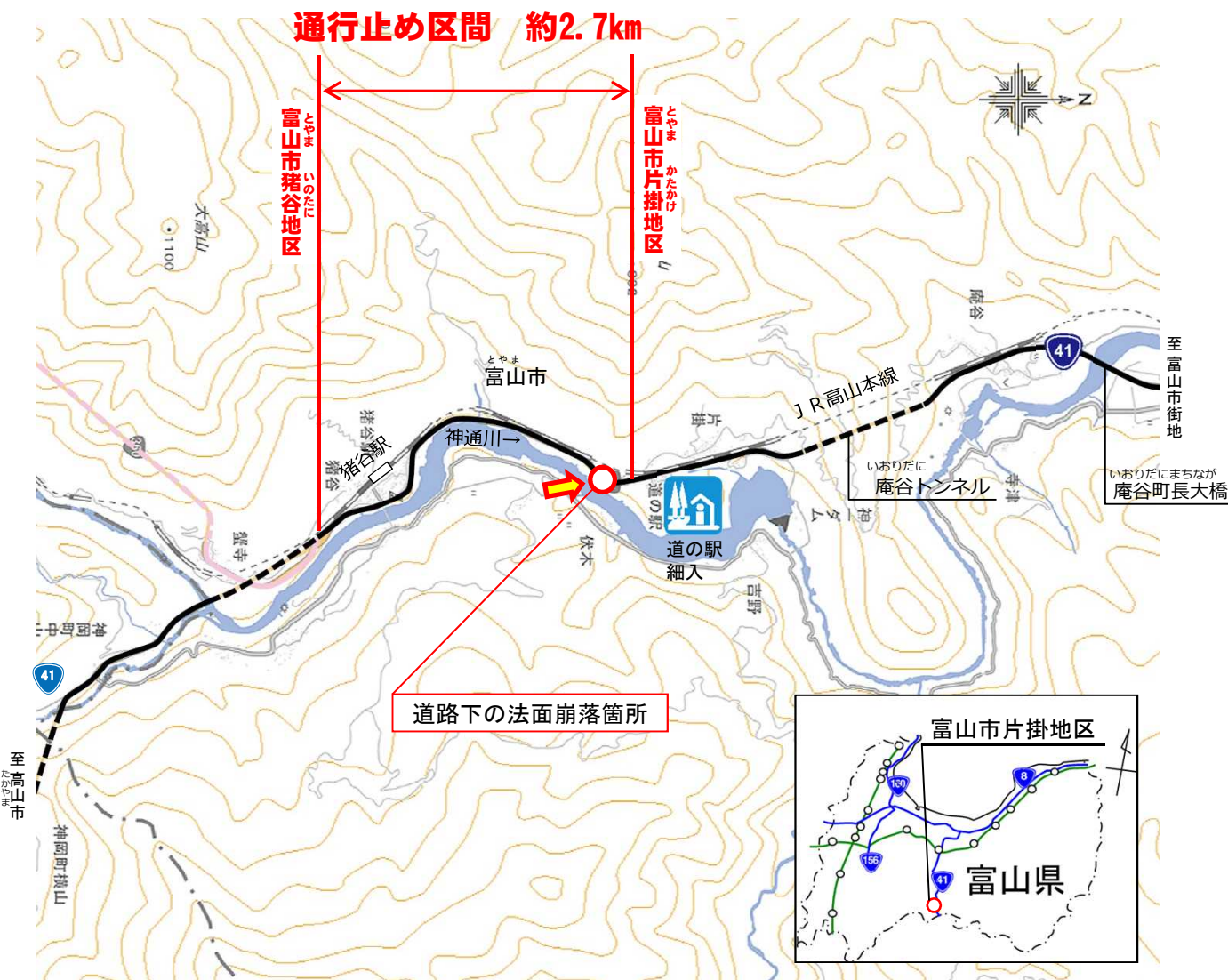
最小橋長18mから最大50m(最大支間長50m)まで4m毎に橋の長さを変えることができるので、現場条件に応じて設置することができます。



[国土交通省 北陸地方整備局 上越防災支援センター所有]

主 要 諸 元			
形式	組立式ポニーワーレントラス下路橋	設計荷重	B活荷重
主要仕様	支間長:最大50m 取付部:6m×上下 全長62m	許容たわみ度	L/400以下
最大部材	長さ9.6m×幅0.9m×高さ2.6m 9,329kg	許容応力度	道路橋示方書の25%増し
全部材重量	197t	架設工法	トラッククレーンによる架設工法及び手延機による送り出し工法
道路規格	第3種 第2級相当		
幅員構成	車道:7.5m 歩道:1.5m		

● 位置図



● 被災状況(撮影:令和2年4月10日)



対岸より全景写真(➡撮影方向)

● 通行止めの状況(富山市街地側)



「道の駅」細入から岐阜県側を望む